

## 数字で見る 「のと鉄道」の推移

### 能登線輸送人員の推移

平成4年（ピーク時）	165万人
平成14年	83万8千人
平成15年	70万4千人
平成15年／平成4年	▲57%

### 沿線市町村の人口

平成4年	16万6千人
平成15年	14万5千人
平成15年／平成4年	▲12.7%

### 沿線高校生数

平成4年	9,947人
平成16年	6,183人
平成16年／平成4年	▲37.8%

### 沿線乗用車保有台数

平成4年	6万7千台
平成14年	8万1千台
平成14年／平成4年	+20.9%

### 列車本数の推移

平成4年	上り16本下り17本
平成16年	上り10本下り8本

### 収支動向

	経常損益	累積損益
平成4年	▲1億9,600万円	▲3,600万円
平成14年	▲2億9,900万円	▲2億1,100万円
平成15年	▲1億9,600万円	▲3億100万円



# ありがとう「能登線」 さようなら「のと鉄道」

## 能登線の沿革

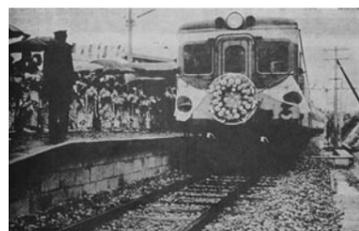
- 明治29年7月 津幡～七尾間（54・4km）が七尾鉄道（民営）として敷設される
- 明治40年9月 国鉄が七尾鉄道を買収
- 大正14年～昭和10年 七尾～輪島間（53・5km）が延長され七尾線が完成
- 昭和26年 奥能登地方が国土総合開発法の特定地域に指定される
- 昭和28年1月 穴水～蛸島間が総工費45億円で着工
- 昭和34年6月 穴水～鶴川間（23km）が開通
- 昭和35年4月 鶴川～宇出津間（9・9km）が開通
- 昭和38年10月 宇出津～松波間（13・8km）が開通



鶴川駅に初めて気動車が到着



鶴川駅から宇出津駅に向けて出発



宇出津駅を出発した気動車が松波駅に到着



38年10月、松波駅にて

- 昭和39年9月 松波～蛸島間（14・3km）が開通し能登線61km全線が開通
- 昭和61年5月 能登線が国鉄再建法に基づく第3次特定地方交通線に選定
- 昭和62年4月 第3セクター「のと鉄道株式会社」が設立
- 昭和63年3月 のと鉄道能登線が営業を開始
- 平成13年3月 穴水～輪島間が廃止
- 平成16年1月 「のと鉄道経営問題検討委員会」が谷本知事に能登線の廃止を提言
- 平成16年3月 「のと鉄道(株)取締役会」において能登線の廃止が決議される
- 平成17年3月31日 のと鉄道能登線が廃止

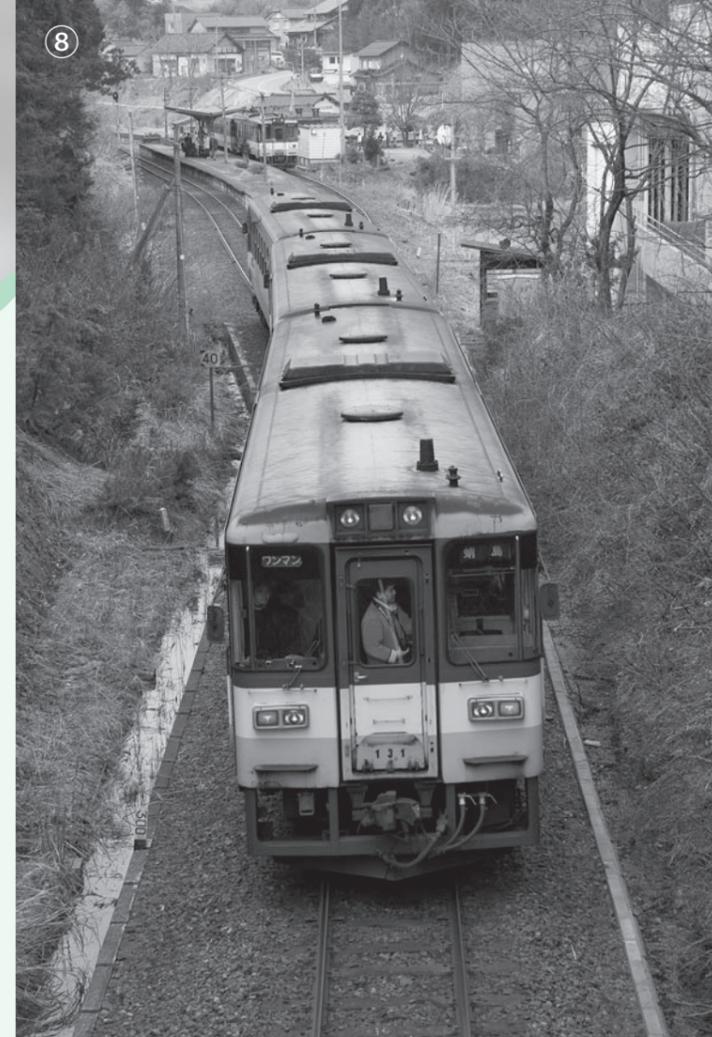


のと鉄道第1号車が松波駅に

心に刻まれた  
鉄路の記憶



▲縄文真脇温泉の露天風呂から望む  
◀小木駅近くの遊覧船乗り場から



▲松波城址公園から松波駅を望む



▲のと鉄道本社が置かれていた宇出津駅

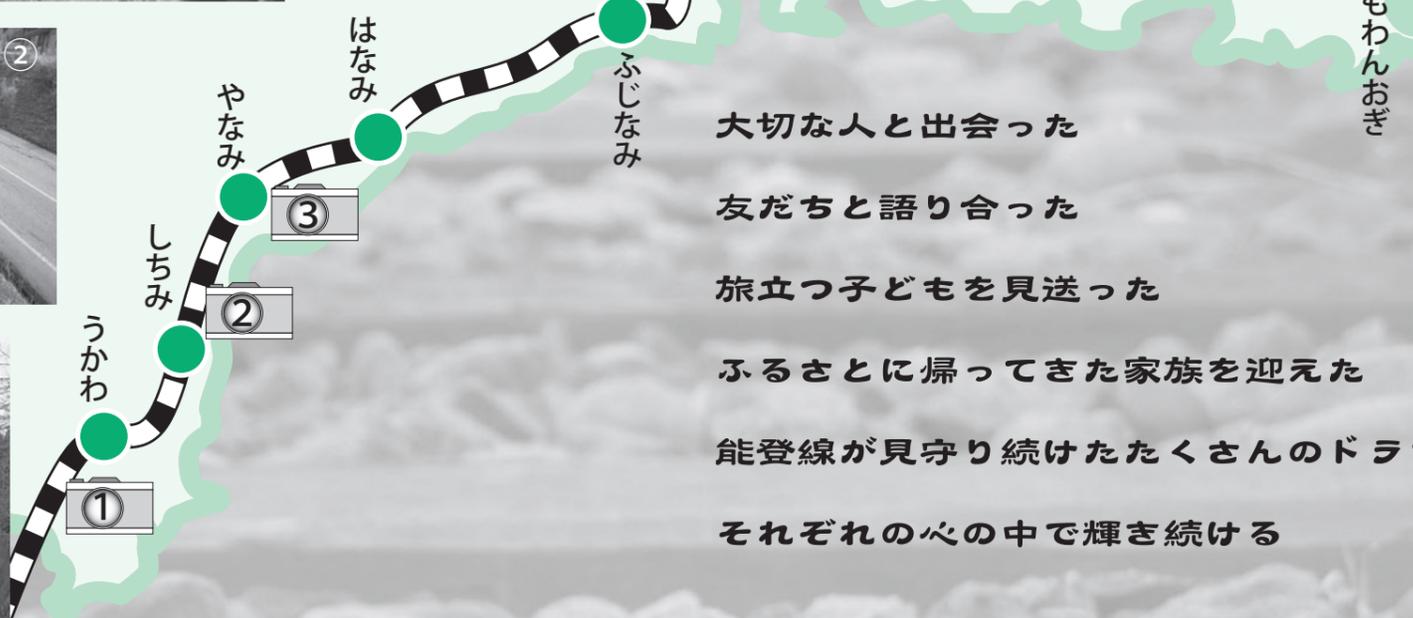


▲矢波駅に到着する  
黒く塗られた「NOTOEXPRESS号」

七見から波並の区間は  
国道沿いにレールバスが走る▶



穴水方面から鵜川へ、トンネルを抜けて山田川を渡る▼



大切な人と出会った  
友だちと語り合った  
旅立つ子どもを見送った  
ふるさとに帰ってきた家族を迎えた  
能登線が見守り続けたたくさんのドラマは  
それぞれの心の中で輝き続ける



▲白丸駅から小木駅に向けて  
長い直線を進む